



10th Anniversary 合併10周年記念映画

# 青色の道 群とおり道

インタビュー 宮崎美子さん  
真山明子役

## プロフィール

1958年熊本県生まれ。熊本大学在学中に「週刊朝日」表紙モデルとなり、テレビCMに出演、話題になる。1980年TBSテレビドラマ「元気です!」で主演を務め、女優デビュー。黒澤明の遺稿脚本「雨あがる」で日本アカデミー賞優秀主演女優賞受賞。映画やドラマに出演しながら、バラエティーやクイズ番組などでも活躍中。

## 家族の ドキュメンタリー

―映画での役どころは?

宮崎 主人公のお母さん役です。みんなが帰って来るのをお出迎えする役ですね。

―佐々部清監督から演技について要望がありましたか?

宮崎 全体的に言われたのは「家族のドキュメンタリーとして撮りたいんだ。とにかくナチュラルにやってください」ということでした。「ものすごいドラマや事件があるような作られた

物語ではなくて、本当にその土地で、どこかの家庭で実際にあったことのように撮りたいんだ」って。なるほどなって感じました。芝居居しないように気を付けようって。

太田には生まれ育つたふるさとを感じる

―駅でのシーンで「いいがね。たまには」ってセリフがあったり、所々で上州弁が出てきますね。

これってうちのこと?って  
思えるような  
親近感のある映画です

いますよね。空気は違っていて、ふるさとってこういう雰囲気を感じられます。この辺の開け具合と畑が、何かちょっと懐かしくもありますね。それとこの暑さも。熊本も盆地なので地面からカーッと来るような暑さの感じが似てるのかなって。

## 心に残る祭り

―映画の最後の盛り上がるシーンに「ねぶたまつり」があります。宮崎さんの心に残る祭りは?

宮崎 熊本だとお盆に行われる『山鹿灯籠まつり』がきれいで印象に残っていますね。私、ねぶたとねぶたの違いが分からないんですけど、太田市で行われるのは『ねぶた』なんですよね?

―元は弘前で「ねぶた」です。徳川の時代に弘前藩の領地が尾島にあったことが縁で始まったんです。

宮崎 そういうのって興味深いですね。土地の魅力や歴史も発信してほしいですね。受け取る方もきちんとキャッチしないと。

―最後に一言お願いします。

宮崎 大きい事件があったり大スペクタクルじゃないけれど、等身大の、これってうちのこと?って思えるような親近感のある映画になるんじゃないかな。なれば大成功だと思います。

宮崎 上州弁は私の出身地の九州方言みたいに標準語と全く違うようなこともないし、アクセントも標準語との差が難しいと伺っていました。初めは地元の人に話してもらって勉強しようと思っただけですが、あまりにも微妙なので難しいだろうって。じゃあ一切無しにしようということになったんです。ただ、ちょっとした「…してるん」なんかを使ってみようかって…。

―今の言い方、ぼっちりで宮崎 (笑) そんな感じで、ちよこっただけ取り入れるくらいにしようと思っただけの人の話ぶりを聞いていますが、なかなか難しいですね。でも入れることでふるさとに帰ってきた感じが一気に出るかもしれない。

―宮崎さんは熊本出身ですが、帰ったときに「ふるさとっていいなあ」って感じることがありますか?

宮崎 あります。やっぱり、楽なんですね。居心地がいいんです。言葉にしても標準語と同じことをしゃべっても、方言だとより深いというか伝わる感じがします。そういう普段着になれる雰囲気がありますよね、ふるさとって。

―太田はどうですか?

宮崎 いこは東京から、りょうもう母であっという間なんですけど、やっぱり違